

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
臨床薬理学	1	後期	2	講義 30時間
担当教員	舟越亮寛、千葉恵子、北原加奈之、鈴木正論			
授業概要	対象者の健康問題に応じた薬物治療について、薬剤動態を理解したうえで、薬剤使用の判断、作用・副作用の観察を含め投薬後のモニタリング、生活調整、回復力の促進、対象者の服薬管理能力の向上へ向けた看護援助等の観点から学び、薬物療法を受ける対象者への高度な看護実践のための知識と技術を修得する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物の動態、作用・副作用・相互作用を説明でき、薬剤使用の判断とモニタリングに活かすことができる。 2. 薬物治療に伴う生活調整、回復力の促進のための援助など、生活の視点から、薬物療法を受ける患者への看護援助について理解を深める。 3. 服薬管理能力の向上へ向けた看護援助に関する知識と技術を修得する。 			
履修条件	特になし			
授業計画	回	内容	担当教員	
	1	薬理学総論、薬物の動態、健康問題に応じた薬剤使用の判断、作用・副作用、相互作用とモニタリング	舟越	
	2	呼吸器系に作用する薬剤と生活調整の特徴	鈴木・北原	
	3	消化器系に作用する薬剤と生活調整の特徴	鈴木・北原	
	4	循環器系に作用する薬剤と生活調整の特徴	鈴木・北原	
	5	内分泌系に作用する薬剤と生活調整の特徴	鈴木・北原	
	6	中枢神経系に作用する薬剤と生活調整の特徴	鈴木・北原	
	7	腎・泌尿器に作用する薬剤と生活調整の特徴	鈴木・北原	
	8	免疫系・感染症に作用する薬剤と生活調整の特徴	鈴木・北原	
	9	抗がん剤と化学療法と生活調整の特徴	鈴木・北原	
	10	緊急・応急処置に用いられる薬剤と生活調整の特徴	鈴木・北原	
	11	小児期患者と高齢患者への薬物療法と生活調整の特徴	鈴木・北原	
	12	周産期医療の薬物療法と生活調整の特徴	鈴木・北原	
	13	精神疾患患者への薬物療法と生活調整の特徴	鈴木・北原	
	14	【事例検討】薬物療法を受ける対象者への看護薬物療法における高度実践看護師の役割	千葉	
	15	【事例検討】薬物療法を受ける対象者への看護薬物療法における高度実践看護師の役割	千葉	
教科書	なし			
参考書	丸山敬(2018)：FLASH 薬理学、羊土社。 高久史磨、矢崎義雄(2020)：治療薬マニュアル2020、医学書院 田中千賀子、加藤隆一(編)(2017)：NEW 薬理学(改訂第7版)、南江堂 吉尾隆他(2019)：薬物治療学、南山堂。			
評価方法・基準	授業の参加状況(50%)と課題レポート(事例)(50%)で評価する。			
事前・事後学習	事前に提示する課題・資料を予習して授業に臨む。 事後学習として、授業での学習内容を自己学習で深め、課題レポートに反映させる。			
備考	特になし			